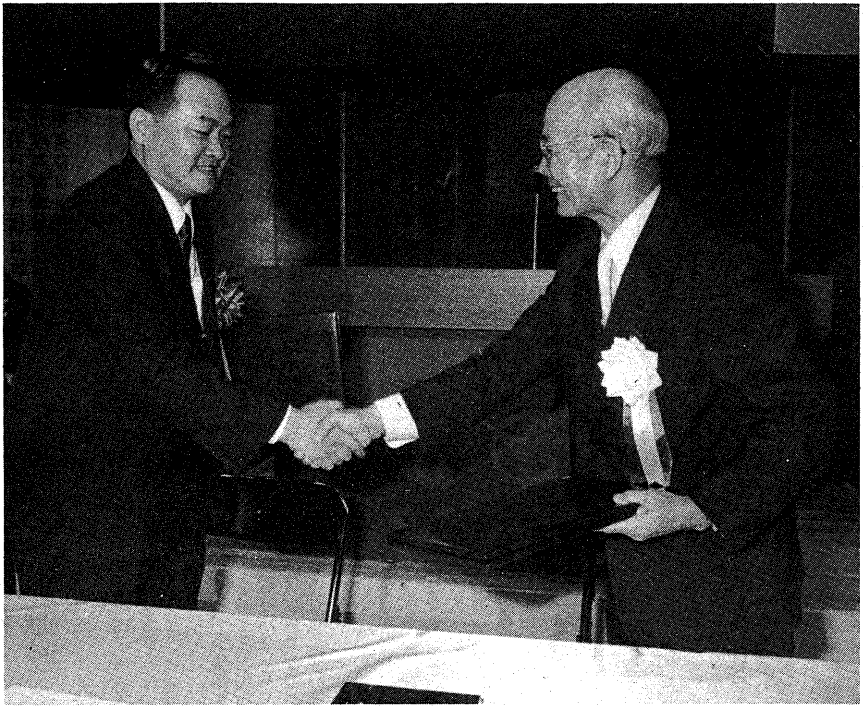


咸陽市と友好都市に



▲調印を終えて、固い握手をかわす両市長（7月24日、文化会館小ホール）

7月24日に調印

本市と中国陝西省咸陽市との友好都市提携調印式が、七月二十四日、文化会館小ホールで行われました。池本正夫宇治市長と祝新民咸陽市長が「平和友好・平等互恵・相互信頼・長期安定の四つの原則に基づき、各種の方法で経済・科学技術・文化・教育・スポーツ等の分野における協力と交流を行い、両市の発展と両国民及び両市の友好事業を推進するために努力する」との協定書に署名をし、両市の永遠の友好を誓い合いました。

調印式は、七月二十四日午後、両から、文化会館小ホールで池本宇治市長、祝咸陽市長、北村市長参事を各代表者約四百人が出席、文運後、祝新民しゅくしんみん、中華人民共和国駐大阪公使、総領事と谷岡豊・京都府出納長、知事代理が立会人として出席し行われました。式典は、両市の国歌演奏の後、祝新民しゅくしんみん、市長以下五人咸陽市参事、市友好関係強化、相互

理解を深めるを得する協定書が読み上げられ、両市長が日本語、中国語、通の協定書にそれぞれ毛筆で署名をしました。また、幼稚園児が両市長に花束を贈呈するなど、終始なごやかな式典を終えました。調印式の後、両市長は花センター前庭、市の木ロハモミジの整備を、両市の各家庭を樹木とともに大きく育てることを誓い合いました。



▲両市長がサインした協定書

両市長のあいさつ

今日は、咸陽市、宇治市にとって、大変重要な日です。一九八六年七月二十四日は、両市の歴史に書き込まれ、咸陽市長から、咸陽市が初めて外国の親が出来る、咸陽市民も二十万人近くの宇治

咸陽市長 祝新民
 今日、咸陽市と宇治市の友好関係が、両市長の握手によって、更に強固な水を開き、発展が促進されることを願っています。

各分野の交流で友好を

宇治市民にとって大変重要な日です。日本と中国の交流を深め、日本と中国の友好が長く続くとを心から望みます。

池本正夫

調印までの歩み

昭和59年12月 宮城宇治市日中友好協会が市長、咸陽市の友好都市提携について懇談

昭和60年4月 京都府訪問中の陕西省長が大阪日中視察、市長と懇談、陝西省長は、両市の友好都市提携促進に積極姿勢を示す。

昭和60年5月 王参唐咸陽市長以下五人が宇治市を訪問、早期に、友好都市提携すること両市長が確認、咸陽市長、池本市長の咸陽市訪問を要請。

昭和60年5月 中国人民対外友好協会陝西省分會副会長以下五人、宇治市を訪問、副会長、両市の友好都市提携に努力すると表明

昭和60年6月 咸陽市長から、訪問団派遣要請の親書を受理

昭和60年7月 咸陽市との友好都市推進市民会設立

昭和60年9月 中野助役を団長とする、宇治市・咸陽市友好訪問団、咸陽市を訪問

昭和60年9月 中野助役の総領事館を訪問、友好都市提携に向けた総領事館の協力を要請する。

昭和60年12月 咸陽市写真展を、宇治市中文化会館で開催

宇治市史の窓 (その125)

宇治に於ける有力な茶師であった林家は、代官という役職を離れた後も、宇治茶業界の中心的な立場を失ななかつた。

製茶技術の発達

(その一)

全道唯一の抹茶産地であつた宇治の抹茶は、こつた在り方がもたらが知られるのである。しかし、宇治の茶業は江戸時代初期以降、次第に不況への歩みをたどつて、それに加へ、再三の洪水や大火に襲われ、時に

灰の多汁を加へた湯に浸して冷水で冷やして搾りあげて、シロに広げて干し、焙炉で乾かしつつムシロ包んでものもや、熱湯の中に入れて入れ包んで、まろく加熱する工程をくり返す。茶を製作するが、大部分



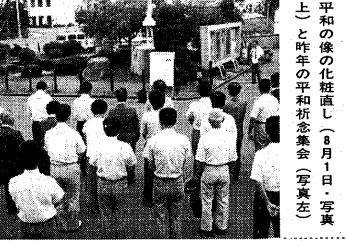
▲製茶場の風景

「宇治市史 第二巻 好評発売中」 巻と、宇治の歴史を編年順に記した「宇治市史年表」をそろそろお求めになることが出来る。価格は宇治市歴史資料館(折原台一丁目一〇〇番地)へお越し下さい。なお、宇治茶(二冊)千円も販売しています。(歴史資料館)

「平和の像」を化粧直し

15日に平和祈念集会

市では、八月十五日の終戦翌日を前にして、一日、市役所前庭にある「平和の像」の二年間のアケを洗い落し、美しく化粧直しをすました。



平和の像の化粧直し(8月1日、写真) 上と昨年の平和祈念集会(写真)

市推揚協議会(会長、池本宇治市)が昭和四十一年に設置、本市の平和のシンボルとなつて、宇治市平和祈念集会(写真)を、

会では、人類の恒久平和と戦争犠牲者のための平和祈り、八月十五日午前十一時五十分から、平和の像の前で平和祈念集会を開催します。市民の皆さんも、ぜひご参加ください。また、正午には「鐘の音」を鳴らして、自らの職場で、分間の黙とうをさげます。



吉澤耕作 選挙委員長
七月二十一日開かれた宇治市選挙管理委員会臨時委員会で、吉澤耕作さん(天久保)

選挙委員長に吉澤耕作さん 初の女性委員も誕生

町上十一(三)が選挙管理委員長に選出されました。また、委員長職務に代理者は、吉澤耕作さん(天久保)が指されました。任期は今年七月十七日までです。今回の委員選出は、小山一雄前委員長死去に伴い行われたもので、

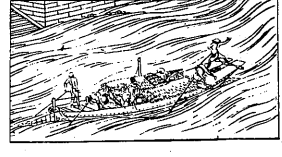
A CHORUS LINE
コーラス ライン
9月10日(水)
午後6時半開演
文化会館大ホール
問い合わせ 文化センター (2)@2111へ チケット発売

KBS京都テレビ (R)E-34ch
★「テレビ市政だより」★
毎週月曜日、午後5時40分

ふるさとがし話

陸上の交通機関が発達していった昔は、川を行き来する舟が、人や荷物を運ぶために大きな役目を果たしていました。でも、急流で知られた宇治川や淀川などは、舟が川を下るときには流れに乗って、比較的たやすく進めましたが、下流から上流へ進むときは、たいへんな苦勞がありました。船頭さんは舟から降りてひき綱を引っぱりながら、川岸を歩いて舟を進めるのです。

綱で引いた 三十石船



宇治川の場合、伏見から宇治まで左岸につづく横島堤の中腹に、綱道という細い道が付けてあつて、長いひき綱で舟を引きのぼっていました。また淀川には、大坂の天満橋付近と伏見の京橋付近との間を往復する客船「三十石船」がありました。この船は、文字通り、米三十石(約四千六百キログラム)が積める舟舟を客船に改造したもので、乗客の定員は二十八名、それに四人の船頭さんが乗っていました。